

## リトアニア・パリ訪問レポート

各務 五希

「アチュー」

この言葉を皆さんはご存知でしょうか。これはリトアニア語で「ありがとう」という意味です。恐らく私が今回の訪問事業で、日本語以外の言語で最もたくさん使ったことばではないでしょうか。

8日間に渡るリトアニア・パリへの訪問で、本当にたくさんの方を見て、聞いて、感じました。リトアニアという国の歴史や杉原千畝氏の偉大な功績。映画のセットがそのまま現れてきたかのような街並み。リトアニアの人々が持つつつこくて温かい心、フランス・パリの人々の陽気で明るい人柄。パリのエッフェル塔や凱旋門など世界的に有名な建築物から、人通りの少ない路地裏やバスで走るたびに広がる地平線など、カメラを手放すことができませんでした。

この訪問事業では、普段の「観光」では絶対に行けないような場所にも訪れることができました。リトアニアのカウナス、ビリニュスという二つの市役所、杉原氏の名前が残る公園や通り。そして、リトアニア日本国大使館の表敬訪問。ここでは、今回の事業で最も心に残った言葉を頂きました。

大使館の明石館長の言葉です。「これだけ純粹に空気のように“この地を日本”だと思えている国は日本くらい。他国の侵略や領土問題などを抱えている国がほとんどなんです。(もちろん日本も今も昔もそういった問題が皆無という訳ではなかったけれど、という一言は決して忘れられませんでした。)その言葉を聞いて、理解しようとする気持ち、感謝する心が大切なのだと改めて感じさせられました。“日本を日本”だと思えていること、それ自体が非常にまれなのだ、普段の生活では感じることはやはり難しいけれど「理解する努力」をしていく必要があるのだと思うことができました。

今回この訪問事業に参加していなかったら、恐らく私は一生リトアニアという国に関心を持つこともなく、杉原氏の功績についても「命のビザの人」といった程度の知識のまま、ましてリトアニアに行くということなど考えもしなかったと思います。私はリトアニアもパリも初めて訪れることができましたが、それぞれに

趣があり異なる魅力のある場所でした。私がもう少し世の中のことを知って、新しいことを学びたいと思ったその時に、もう一度その地を踏んでみたいと思います。“趣”があるから“赴き”たくなってしまうのでしょうか。これから先、まだ知らないたくさんの方の“ありがとう”と出逢っていきたくないと強く思えるような8日間でした。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい経験を支えてくださった吉田茂様、八百津町の皆さま、添乗員さん、それぞれの国のガイドさん及び運転手さん、多くの皆さまに感謝申し上げます。

それでは皆さん、最後は一緒に。

「アチュー」



トウラカイ城の前で記念撮影



第9要塞博物館の独房と当時の収容されたユダヤ人の服装